

# 収支計画の時点修正について

## 1. 目的

前回収支計画策定後から変化のあった点を反映することで、より精度の高い計画とする。

## 2. 主な修正要因

- ① 平成 29 年度野洲病院決算状況からの時点修正
- ② 新病院における委託経費等の精査進捗分
- ③ 建築費用の上昇見込み分

## 3. 時点修正の結果

- ・ 病院事業損益は開院 12 年目で黒字化（前は開院 2 年目）
- ・ キャッシュフローは開院 26 年目で資金ショート

今回の修正内容を反映させた場合、開院 2 年目で黒字転換すると説明している病院事業損益は開院 12 年目で黒字化する結果となった。しかし、キャッシュフローは毎年度少額の赤字となっており、開院 10 年目から開始される一般会計借入金の償還や開院 16 年目に実施する設備更新工事の償還等が主な要因となり、開院 26 年目の平成 58 年に資金ショートする。

## 4. 主な修正点

(1) 外来診療収益（詳細については別紙「収支計画の時点修正に係る算定根拠」参照）

- ・ 外来収益を 150,000 千円減額した約 850,000 千円に修正（前は約 1,000,000 千円）

修正要因：土曜休診影響額精査による外来診療収益見込額の下方修正

(2) 経費の増額修正（詳細については別紙「収支計画の時点修正に係る算定根拠」参照）

- ・ 設備等関係費用の見直しにより経費が約 80,000 千円の増額  
（事業収益に連動する変動経費は見直し前と変わらない前提での増加額）

修正要因：設計協議等で判明した新病院で新たに必要となる維持管理費及び現野洲病院の事業承継上必要経費の精査結果に伴う追加費用

(3) 病院整備事業費の時点修正（詳細については別紙「収支計画の時点修正に係る算定根拠」参照）

- ・ 整備事業費が約 800,000 千円の増額

修正要因：実施設計業務進展に伴う現時点での概算工事費の提示等

(4) 看護学生修学資金の計上

- ・今年度から開始した修学資金貸付制度を収支計画へ反映

修正要因：病院事業における看護学生への修学資金貸付制度の開始

(5) 訪問リハビリテーション、居宅介護及び訪問看護事業に係る収益及び費用の反映

- ・収益については平成 29 年度野洲病院決算額を計上
- ・費用については人件費及び経費を増額

修正要因：訪問リハ、居宅介護及び訪問看護事業を病院事業で実施するため

(6) 御上会からの残余財産の計上中止

- ・想定残余財産約 277,000 千円の計上取り止め

修正要因：平成 31 年度に御上会の残余財産（流動資産）の承継を想定していたが、承継時期等が不確定であるため、収支計画への反映を取り止める。

## 収支計画の時点修正に係る算定根拠

### (1) 外来診療収益

- ・ 外来収益を 150,000 千円減額した約 850,000 千円に修正（前回は約 1,000,000 千円）

収支計画の外来患者数推計は、土曜診療を実施していた野洲病院の平成 26 年度診療収益を基礎データとして患者数推計を行っている。しかし、**新病院では土曜休診を予定**しており、平成 29 年 11 月に公表した収支計画では、診療日が週 6 日から週 5 日になる影響は少ないと見込んでいたため外来収益を見直さなかったが、**土曜休診となった平成 28 年度の決算実績を確認したところ 150,000 千円の差が生じており、平成 29 年度の決算実績も踏まえると新病院での外来収益見込みに大きく影響する。**そのため、野洲病院の土曜診療実施最終年度であった平成 27 年度の土曜診療患者相当分を除いた割合を考慮し再検討した結果、**毎年度 850,000 千円程度で推移**する内容に修正を行う。

### (2) 経費の増額修正

- ・ 設備等関係費用の見直しにより経費が約 80,000 千円の増額

現在の収支計画では、**野洲病院の決算額をベース**として公立病院化及び独立行政法人化することによる価格上昇率を考慮して経費率を設定してきた。今回、設計図面に基づき設備の維持管理費用が示されたことや野洲病院における契約内容の情報収集が進んだことを踏まえ、**野洲病院から充実を図ることとなった設備に係る維持管理費や、現野洲病院を一定期間引き継ぐ上で必要となる経費等を新たに計上するもの。**経費については、医業収益に連動して増減する項目が存在するため、収益を現行の計画から変わらない前提での見直し影響額は**毎年度約 80,000 千円経費が増加する。**

### (3) 整備事業費の時点修正

- ・ 当初事業費が約 800,000 千円の増額

今年度、実施設計業務において佐藤総合計画から**概算工事費**が示されたことを踏まえ、当初整備事業費及び計画年度の時点修正を行った。概算工事費については建築資材価格上昇等により新病院の整備事業費は**約 800,000 千円の増加（うち、建設工事費は 641,445 千円の増加）**となっている。また、事業費の修正と併せて開院前年度の設定額をそれぞれ決算及び予算ベース等の実績額に修正を行っている。



